

# 安心・安全 **なたの使い方**

薪の組み方は裏面を見てね

## 1. **なたを使う前に（大切なこと）**



◎なたはカゴに入れて運ぶ



◎なたを持つ手は素手



◎なたは地面に置かない

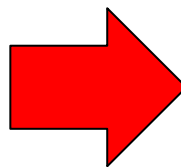


◎節のない薪を割る

## 2. **薪割り(2人で協力バージョン) ※小学生以下**



◎薪を持つ手は軍手をはめる



薪になたの刃が  
くいこんだら

**割る薪は2本**

《役割①（1人）》

割る薪になたの刃をあて、しっかり支える。

《役割②（1人）》

なたを持っている人の横から、薪でなたの背をたたき、刃を薪に食いこませる。

きょうりサイズ6本  
わりばしサイズ8本  
※詳しくは薪の組み方へ

【なたを片手で持つ場合】  
なたを持つ手は素手  
反対の手に軍手を2枚重ねる



《役割①（1人）》

なたを軽く持ち上げ、トントントンとなたを打ち込む。

《役割②（1人）》

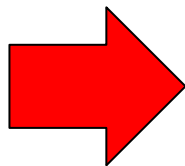
薪割りの人に近づかないように、周りの安全確認をする。

# まき く かた パッと火がつく 薪の組み方

## 1. 薪を割る



節のない薪を **2本**



① 「きゅうり」 くらいの太さ (中)

**6本**



② 「わりばし」 くらいの太さ (細)

**8本**

あなたの使い方は  
裏面を見てね

※節 (ふし) とは



写真のようなところ  
(でこぼこして、枝の折れたようなあと)

## 2. かまどに薪を組む



割っていない薪を三角に組み、真ん中にかるく丸めた新聞紙を入れる。



三角の薪の上に、わりばしの太さの薪を重ならないようにのせる。



さらに、きゅうりの太さの薪をまんべんなくのせる。



鍋の準備ができたことを確認してから火をつける。

### ポイント

- ◎新聞紙→わりばし(細)の薪→きゅうり(中)の薪に火がついたら、割っていない(太)薪をのせて、火が消えないように育てる。
- ◎鍋の中を焦がさないように、薪を入れながら、火の大きさを調整する。
- ◎鍋の下に火がくるように、火の場所を調整する。



乾わいた「松ぼっくり」や「杉の葉」は自然の着火剤!!  
松ぼっくりや杉の葉は脂分を多く含むため、よく燃えます。  
自然の素材を使った火起こしも野外炊事ならではの。